



# マルト便

MARUTO INFORMATION

ホームページにバックナンバー掲載中

マルト商事

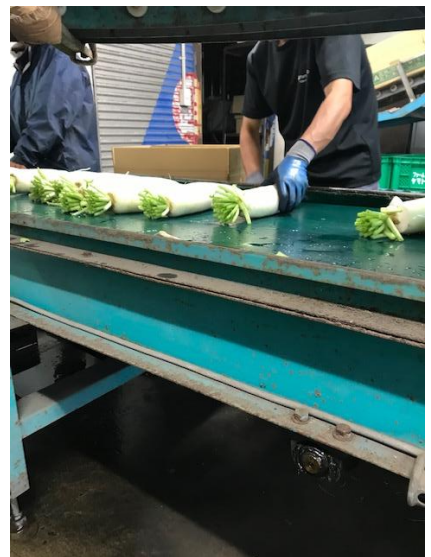
検索

お客様の笑顔のために...

チャレンジ 

11月号 NOV 2019

<http://www.maruto-shoji.co.jp>



## 明るい未来への兆しを

19号台風並びにその後の豪雨により被害を受けられた皆様にお見舞い申し上げます

10月の台風19号と大雨は東日本に大きな被害を与え、今もまだ多くの方が災害復旧に向けてご苦労をされています。農林水産省のまとめによると農業関係に限っても34都府県に被害があり、総額800億円以上の損害となったと報告されています。まだ被害の全容は見え、これから先についても影響は必ずあります。自然災害はいつなごき、誰の身にもふりかかる可能性があるのものであるということを実感しました。

そのような天候の中ではありますが、大変明るい話題として10月22日に即位礼正殿の儀が執り行われました。午前中に降り続いていた雨が儀式の終了とともに止み、大きな虹がかかるという幻想的な光景がありました。未来に希望の持てるような素晴らしい儀式であったのではないのでしょうか。

一方農産物の状況は中々に読むのが難しいです。天候は異常な状態が続いているように思いますがキャベツや大根などを中心に多くの野菜で未だ価格は低迷している状況です。台風や大雨の影響がなかった地区では農産物の生育は順調であり、また気候的にも暖かで秋冬商材の売れ行きは良くない状況です。モノ余りの傾向がみられます。

しかし先を見ると一気に情勢が変わる可能性もあるかと思えます。冬場の産地の状況により、品目によっては大きく影響が出ることも予想されています。

10月25日に宮崎県に行き参りました。11月より出荷が開始となる大根の圃場視察とスタートのご挨拶が目的です。加工業務用では鹿児島県産大根の流通が多いかと思えますが、宮崎県も切干大根が有名な通り、大根の大産地だと思えます。弊社でも今年から取り扱いをさせて頂くことになりました。出荷期間は11月から翌5月までを予定しています。産地表記の関係上、より長く継続出荷して欲しいというニーズに応えられる産地様となります。今年の宮崎県は8月に一部降雨の影響でやられた地域はあったものの、多くの地域で天候が順調であったため生育が良い状態でした。温度が例年より高い状態ではあったものの、今後冷えが来たらぐっと太りも良くなっていくとのことでした。私自身大根の産地契約が初めてなこともあり、玉葱の契約と色々異なるところもあり、大変勉強になっております。産地様と会話をしっかりとより良い商品をお届けできるように努めて参ります。

来年はオリンピックイヤーとなります。オリンピック競技のマラソン、競歩開催地について、気候条件の問題で色々議論されていますが、東京、札幌どちらになっても大いに盛り上がる大会になってほしいものです。そして集まった多くの方々に、弊社取扱いの農産物を食べて頂けるように努力していきたいと思えます。宮崎県産野菜も色々ご提案ができますので是非お問合せください。宜しくお願いします。

# “食”の分野で役立つマーケティング情報

ラグビーのワールドカップ日本大会は予想をはるかに超えた盛り上がりで、日本中を熱狂させています。残念なことに私はチケットを持っておらず試合を観に行けていません。それでも出張先の熊本が、ウェールズ対ウルグアイの試合に会場だったおかげで、ラグビーワールドカップの気分だけは味わうことができました。この原稿を書いているこの週末には南アフリカ対イングランドの決勝の試合があり、いよいよ大会もクライマックスを迎えます。

ひとつ驚いたことはニュージーランドがイングランドに敗れた準決勝の試合です。準々決勝のアイルランド戦では実力の違いを見せつけたニュージーランド代表のオールブラックスがイングランドになすすべもなく、これまで見たこともないような姿を世界のラグビーファンが目にした一戦でした。「ニュージーランドの弱みを突いて、自分たちの戦いができた」と話したイングランドの監督のエディ・ジョーンズは、組み合わせが決まった2年半前から準備を重ねてきたそうです。大会三連覇がかかったニュージーランドですから、もちろん十分な準備をして大会に臨んでいると思います。しかし、それを遙かに超えるイングランドの戦いぶりは、ニュージーランドのプランを見事に打ち砕きました。王者であるニュージーランドは、自分たちの戦い方に絶対の自信があり、そのことがイングランドに苦戦をした場合の対処をどうするかという対策、つまりプランBを準備させなかったのかもしれない。

このことはスポーツに限らずビジネスの現場でもあてはまるかもしれません。知り合いのベンチャーキャピタリストの話では、成功するベンチャー企業は事業を進めていく中でビジネスの内容を少しずつ修正していきながら成長をしていくそうです。どれほど自信のある事業プランであったとしても、常に状況は変化します。予想をしていなかった問題が起きることもあり、それらへの対処の準備や適応力を持っていないといけない。事業プランを進化させられない企業は必ず行き詰まるそうです。

新規事業においても全く同じことが当てはまります。事業化判断時のプランをそのまま変えずに成功するということはないと思います。事業化が承認されて、ビジネスがスタートすると実際に商品やサービスを使ったユーザーの声など、事業の実情を反映したリアルな情報が次々と集まります。スタート前段階でどれだけ詳しくリサーチをした新規事業プランであっても、実際にスタートしてみて初めてわかることはたくさんあります。これらに対応しながら、修正を加えてビジネスプランをより進化させていくこと、つまりプランBを準備できているかが新規事業の成否を左右するカギとなるのでしょうか。ニュージーランドが敗れた準決勝の試合を観て、このことについてあらためて考えさせられました。



木下康司 きのしたこうじ  
1966年生まれ。キノ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役。  
デザインとコミュニケーションの力を使い商品やサービスの価値を高めてブランド力を作り出すことに取り組んでいる。  
<http://www.kino-company.com>

## 11月 玉葱商品産地情報

産地		状況
国産黄玉葱	北海道	台風の影響で流通が乱れ、滞留分品位確認必要
輸入黄玉葱	USA	—
中国剥き玉葱	甘肅省	品質は良好 安定しています
国産赤玉葱	北海道	台風の影響で流通乱れ、品位確認必要
輸入赤玉葱	USA	品質は良好です

※本記事に関するご要望・改善等ございましたらお気軽にご連絡ください。  
お問い合わせはコチラ⇒TEL049-258-5315